

# オリンピック・パラリンピック開催、 障害者スポーツに関する世論調査〈概要〉

令和2年3月

## 調査実施の概要

### 1 調査目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に当たり、都民の関心等の意識を把握し、今後の関連事業推進のため活用するとともに、障害者スポーツへの関心等の意識を把握し、スポーツ都市東京の実現に向けたスポーツ推進策展開のための参考とする。

### 2 調査項目

- (1) 東京2020大会の観戦方法等
- (2) 東京2020オリンピック・パラリンピックのライブサイト等
- (3) 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム
- (4) 東京2020パラリンピック実施競技、選手の認知度、情報の収集源
- (5) 障害者スポーツへの関心度等

### 3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 調査期間：令和元年11月15日～12月1日/令和2年1月6日～1月19日
- (6) 調査実施機関：株式会社 サーベイリサーチセンター

### 4 回収結果

- |                |                |
|----------------|----------------|
| (1) 有効回収標本数（率） | 1,843標本（61.4%） |
| (2) 未完了標本数（率）  | 1,157標本（38.6%） |

東京都生活文化局

## 調査結果の概要

※nは質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す

※M. A. はいくつでも選択

※M. T. は回答の合計をnで割った比率

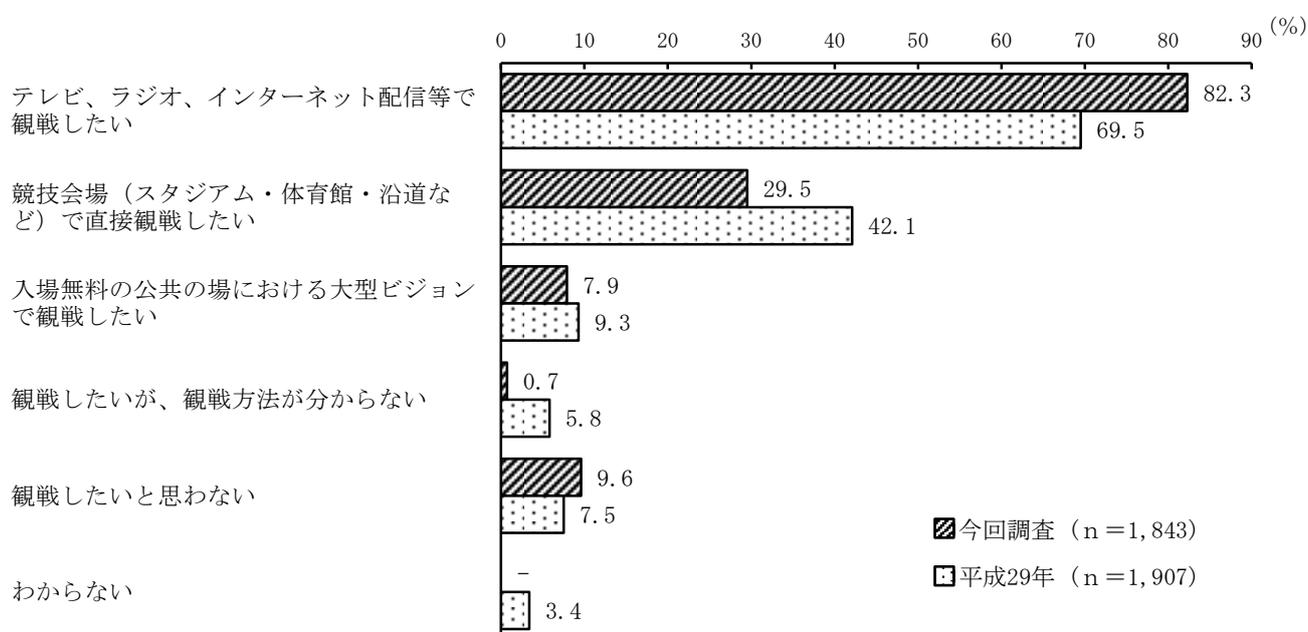
### 1 東京2020大会の観戦方法等

#### (1) 東京2020オリンピック競技大会の観戦方法：

東京2020オリンピック競技大会をどのように観戦したいかを聞いた。(M. A.)

(本文P3～P6)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が82%でトップ  
(平成29年より13ポイント増加)
- ・「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」30%、「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」8%が続く



(注1) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)

(注2) 「わからない」は今回調査なし

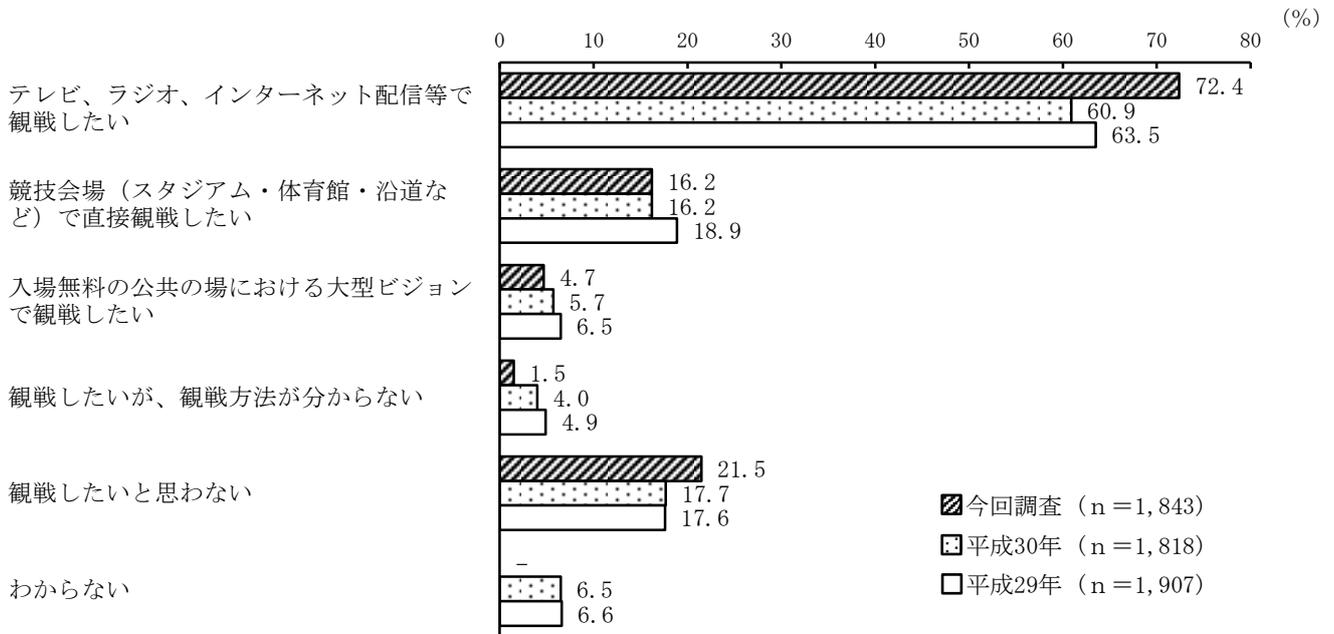
(注3) 「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」は、平成29年では「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映(ライブサイトやパブリックビューイング)で観戦したい」と表現していた。

(2) 東京2020パラリンピック競技大会の観戦方法：

東京2020パラリンピック競技大会をどのように観戦したいかを聞いた。(M. A.)

(本文P7～P10)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が72%でトップ  
(平成30年より12ポイント増加)
- ・「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」16%、「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」5%が続く



(注1) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成30年9月調査)

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)

(注2) 「わからない」は今回調査なし

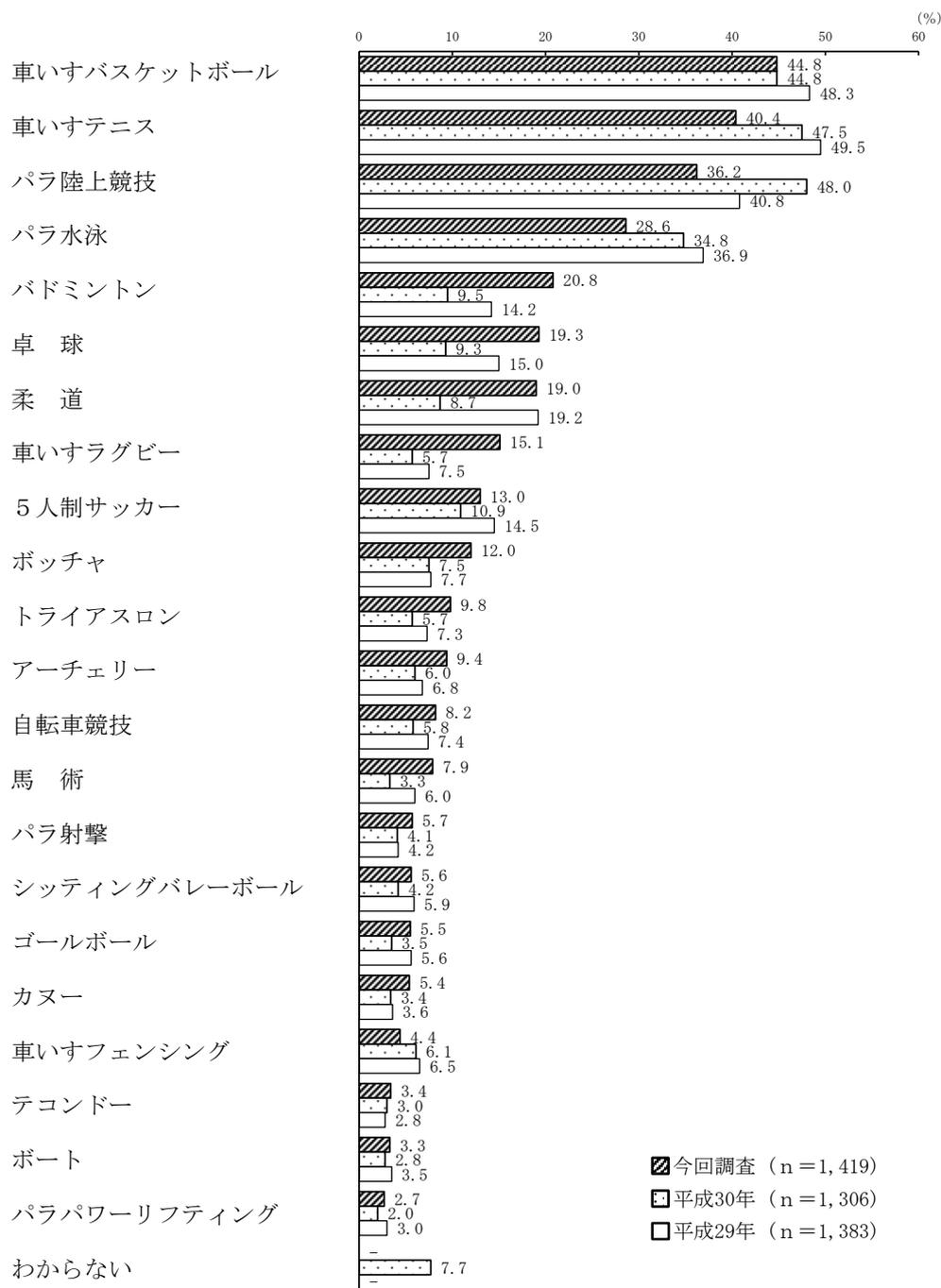
(注3) 「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」は、平成30年以前では「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映(ライブサイトやパブリックビューイング)で観戦したい」と表現していた。

[東京2020パラリンピック競技大会で観戦したい競技]：

「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」と答えた人（1,419人）に、東京2020パラリンピック競技大会で観戦したい競技を聞いた。（M. A.）

（本文P11～P14）

- ・「車いすバスケットボール」が45%でトップ（平成30年と同じ）
- ・「車いすテニス」40%、「パラ陸上競技」36%、「パラ水泳」29%が続く



(注1) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成30年9月調査）

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

(注2) 「わからない」は今回調査なし

(注3) 「パラ陸上競技」「パラ水泳」「車いすラグビー」「パラ射撃」「パラパワーリフティング」は平成30年以前では「陸上競技」「水泳」「ウィルチェアラグビー」「射撃」「パワーリフティング」と表現していた。

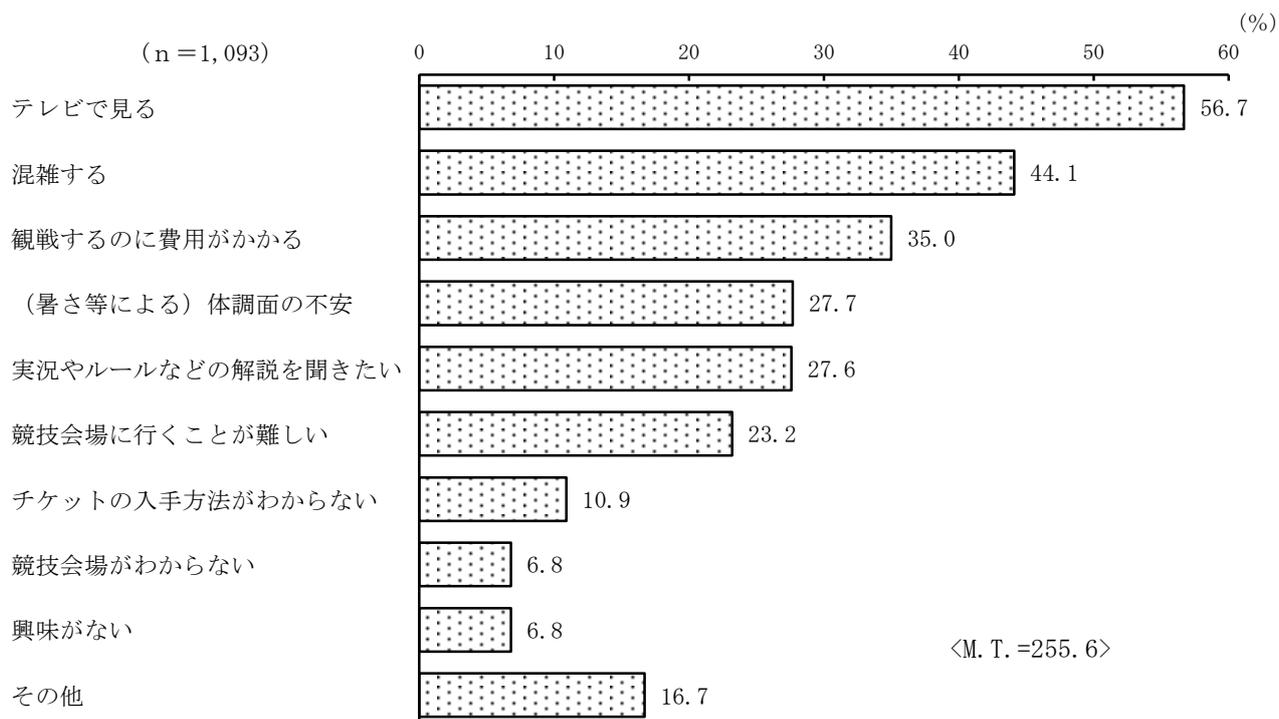
[競技会場で観戦したいと思わない理由] :

「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」「入場無料の公共の場における大型ビジョンで観戦したい」と答えた人(1,093人)に、競技会場で観戦したいと思わない理由を聞いた。

(M. A.)

(本文P15~P18)

- ・「テレビで見る」が57%でトップ
- ・「混雑する」44%、「観戦するのに費用がかかる」35%、「(暑さ等による)体調面の不安」と「実況やルールなどの解説を聞きたい」28%が続く



## 2 東京2020オリンピック・パラリンピックのライブサイト等

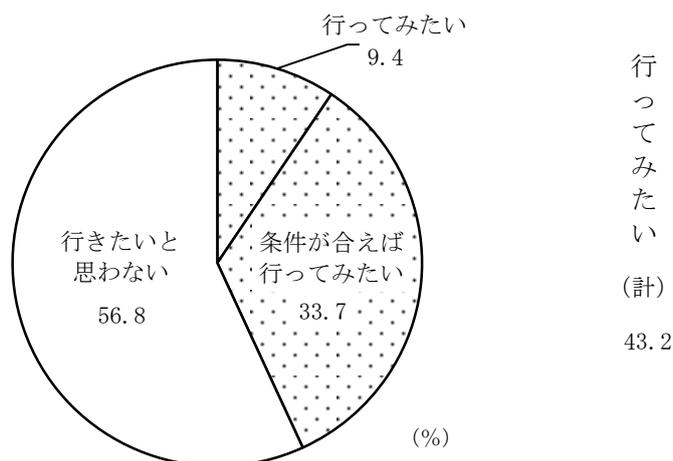
### (1) ライブサイト等の催しへの参加意向：

ライブサイト等の催しへ行ってみたいかを聞いた。

(本文P19～P21)

- ・『行ってみたい (計)』は43%
- ・「行きたいと思わない」は57%

(n=1,843)



(注) 『行ってみたい (計)』は「行ってみたい」「条件が合えば行ってみたい」の合計

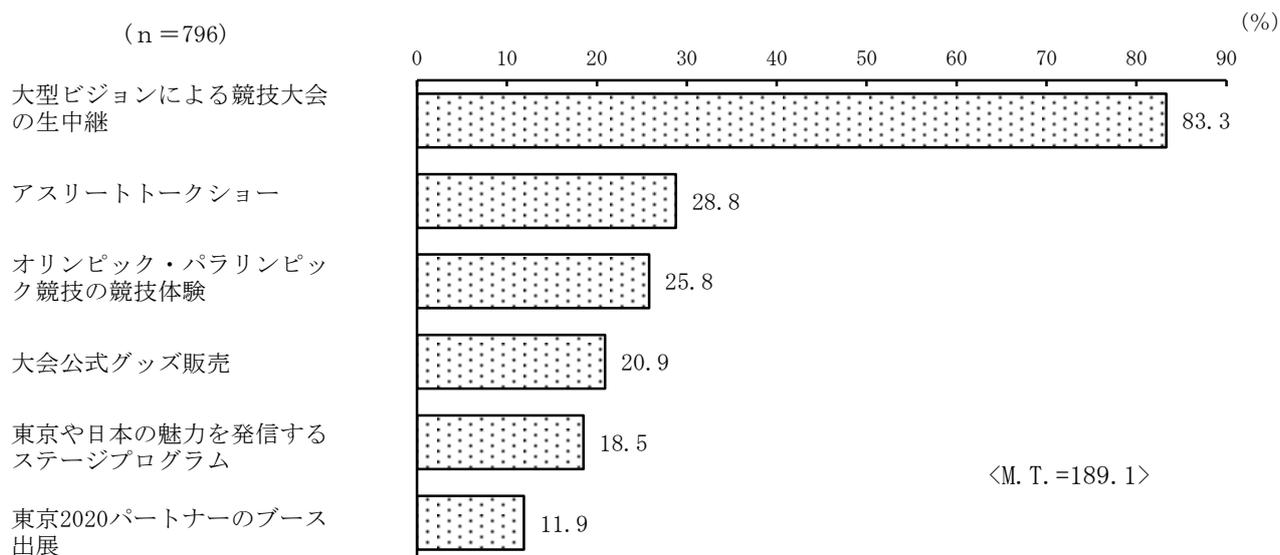
※「ライブサイト」は、チケットを持つ人も持たない人も誰もが大型ビジョンによる競技の生中継等を無料で観戦し、大会の迫力や臨場感を楽しむことができる場所。競技観戦以外にも、東京や日本の魅力を発信するステージプログラム、オリンピック・パラリンピック競技の競技体験、東京2020パートナーのブース出展等を通じて多種多様な催しに参加できる。

**〔ライブサイト等で興味のある催し〕：**

「行ってみたい」「条件が合えば行ってみたい」と答えた人（796人）に、ライブサイト等で興味のある催しについて聞いた。（M. A.）

（本文 P 22～ P 24）

- ・「大型ビジョンによる競技大会の生中継」が83%でトップ
- ・「アスリートトークショー」29%、「オリンピック・パラリンピック競技の競技体験」26%、「大会公式グッズ販売」21%が続く

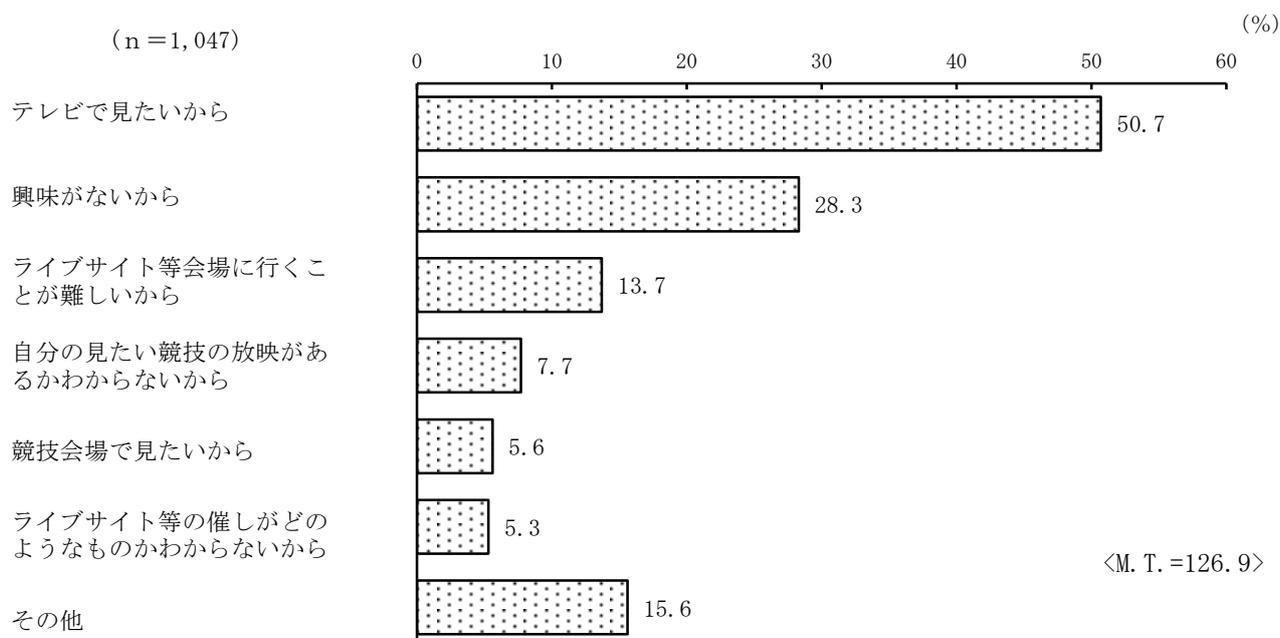


[ライブサイト等に行きたいと思わない理由] :

「行きたいと思わない」と答えた人（1,047人）に、ライブサイト等に行きたいと思わない理由について聞いた。（M. A.）

（本文P25～P27）

- ・「テレビで見たいから」が51%でトップ
- ・「興味がないから」28%、「ライブサイト等会場に行くことが難しいから」14%、「自分の見たい競技の放映があるかわからないから」8%が続く



### 3 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム

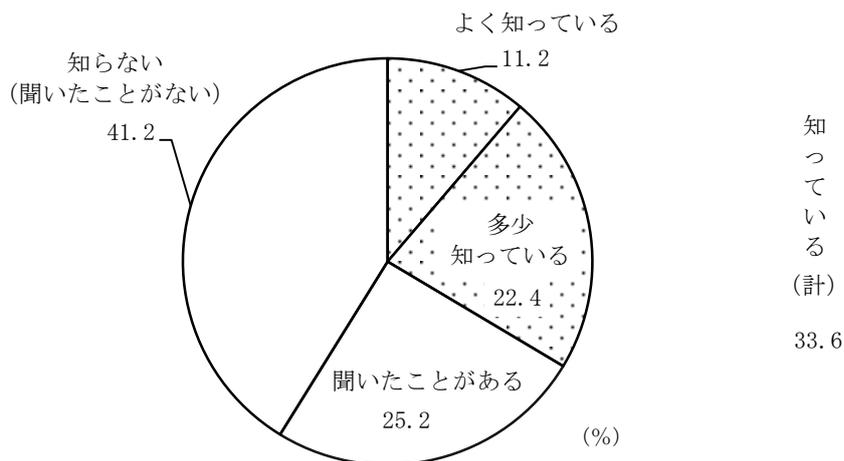
#### (1) オリンピック・パラリンピックが文化の祭典でもあることの認知度：

オリンピック・パラリンピックが文化の祭典でもあることを知っているか聞いた。

(本文P28～P29)

- ・『知っている（計）』は34%
- ・「知らない（聞いたことがない）」は41%

(n=1,843)



(注) 『知っている（計）』は「よく知っている」「多少知っている」の合計

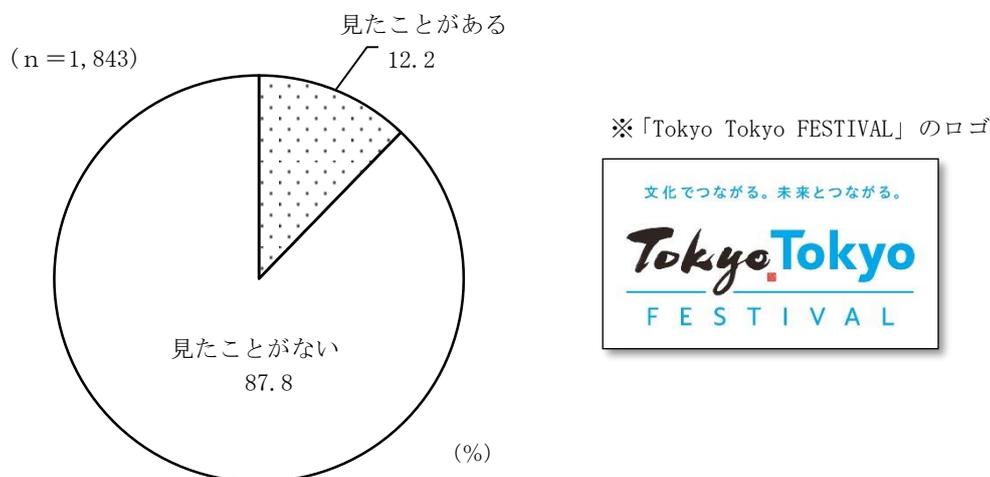
※オリンピックの根本原則について定めているオリンピック憲章では、「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである」としています。こうした考えを受け、近年の大会では、前のオリンピックが開催されてから次のオリンピックが開催されるまでの期間において、開催都市をはじめ各地で様々な文化イベント（＝「文化プログラム」）が実施されています。

(2) 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」のロゴを見た経験：

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」というロゴを見たことがあるか聞いた。

(本文 P 30～P 32)

- ・「見たことがある」は12%
- ・「見たことがない」は88%



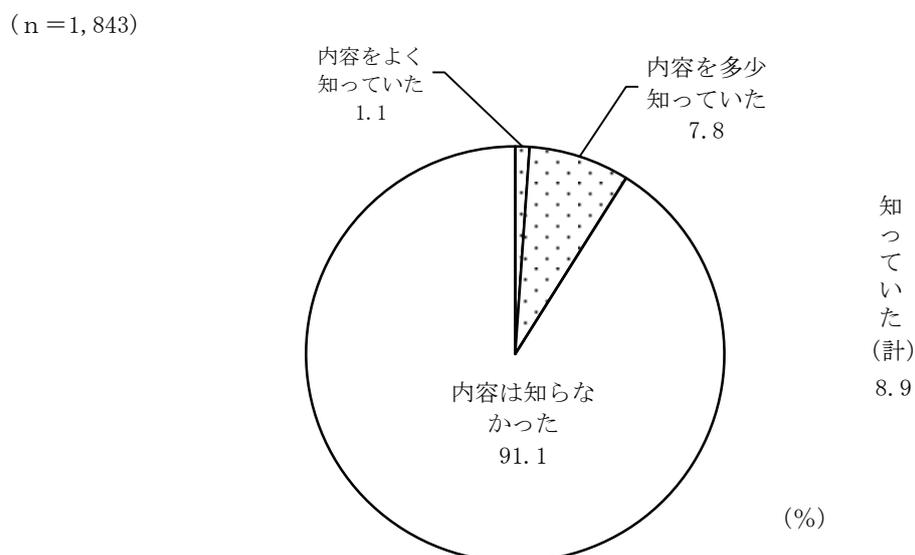
※東京都では、東京2020大会に向けて、東京を文化の面から盛り上げるため、音楽、演劇、ダンス、美術、オペラ等の多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組として、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」を行っています。「Tokyo Tokyo FESTIVAL」では、「文化の祭典」ならではの象徴的なプログラムのほか、都立の美術館・博物館・ホールで行われる展覧会や公演、まちを舞台としたアートイベントなどを展開しています。

(3) 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の内容の認知度：

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の内容を知っていたか聞いた。

(本文 P 33～P 35)

- ・『知っていた (計)』は9%
- ・「内容は知らなかった」は91%



(注) 『知っていた (計)』は「内容をよく知っていた」「内容を多少知っていた」の合計

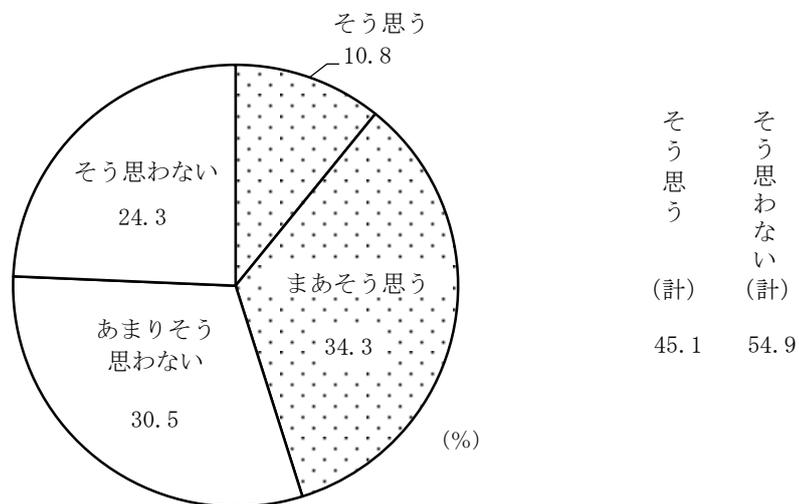
(4) 文化体験への参加意向：

文化体験に参加したい（鑑賞したい）かを聞いた。

(本文 P 36～ P 38)

- ・『そう思う（計）』は45%
- ・『そう思わない（計）』は55%

(n = 1, 843)



(注) 『そう思う (計)』は「そう思う」「まあそう思う」の合計

『そう思わない (計)』は「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計

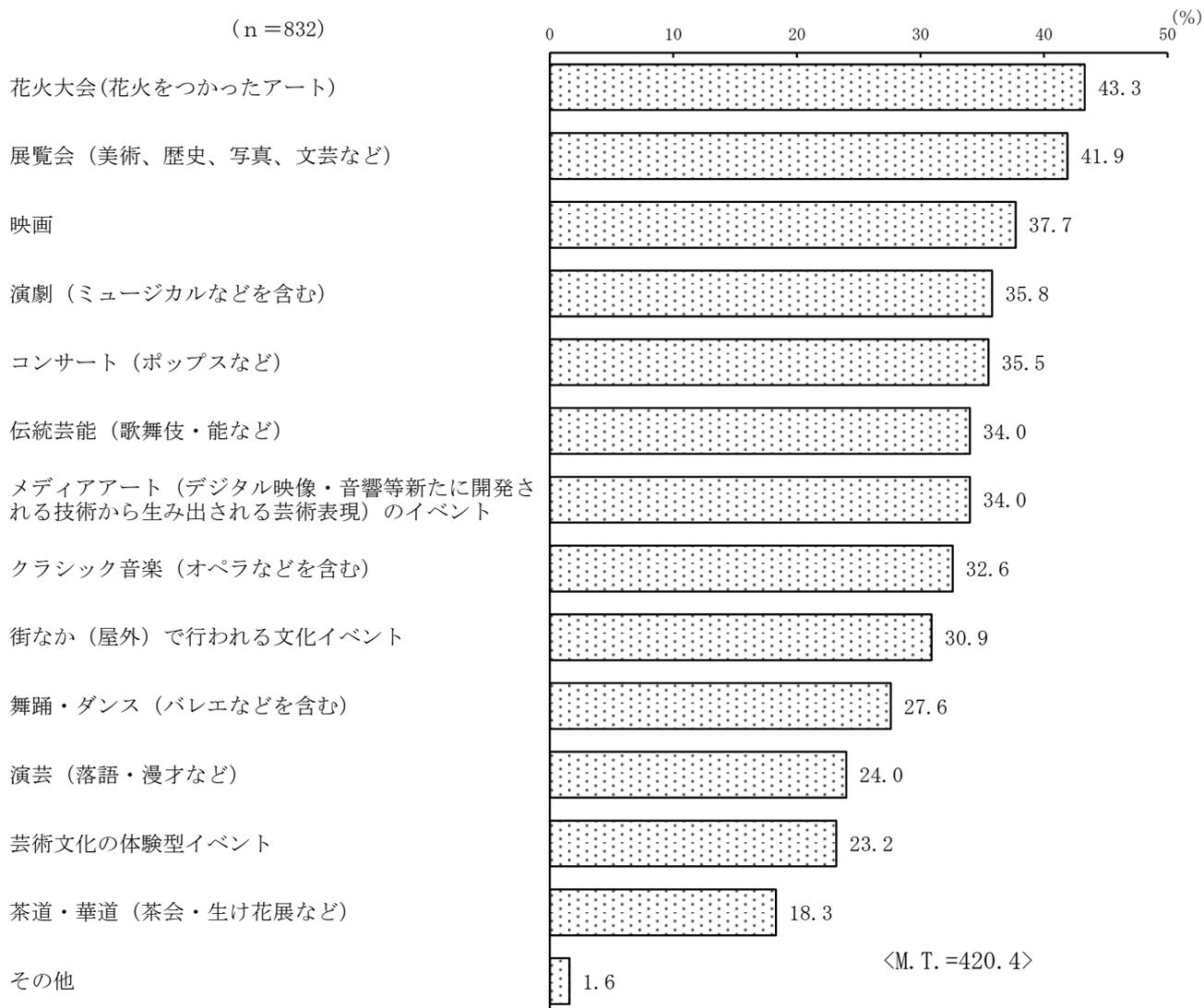
[文化体験で興味のある分野]：

「そう思う」「まあそう思う」と答えた人（832人）に、文化体験で興味のある分野を聞いた。

(M. A.)

(本文 P39～P41)

- ・「花火大会（花火をつかったアート）」が43%でトップ
- ・「展覧会（美術、歴史、写真、文芸など）」42%、「映画」38%、「演劇（ミュージカルなどを含む）」36%が続く



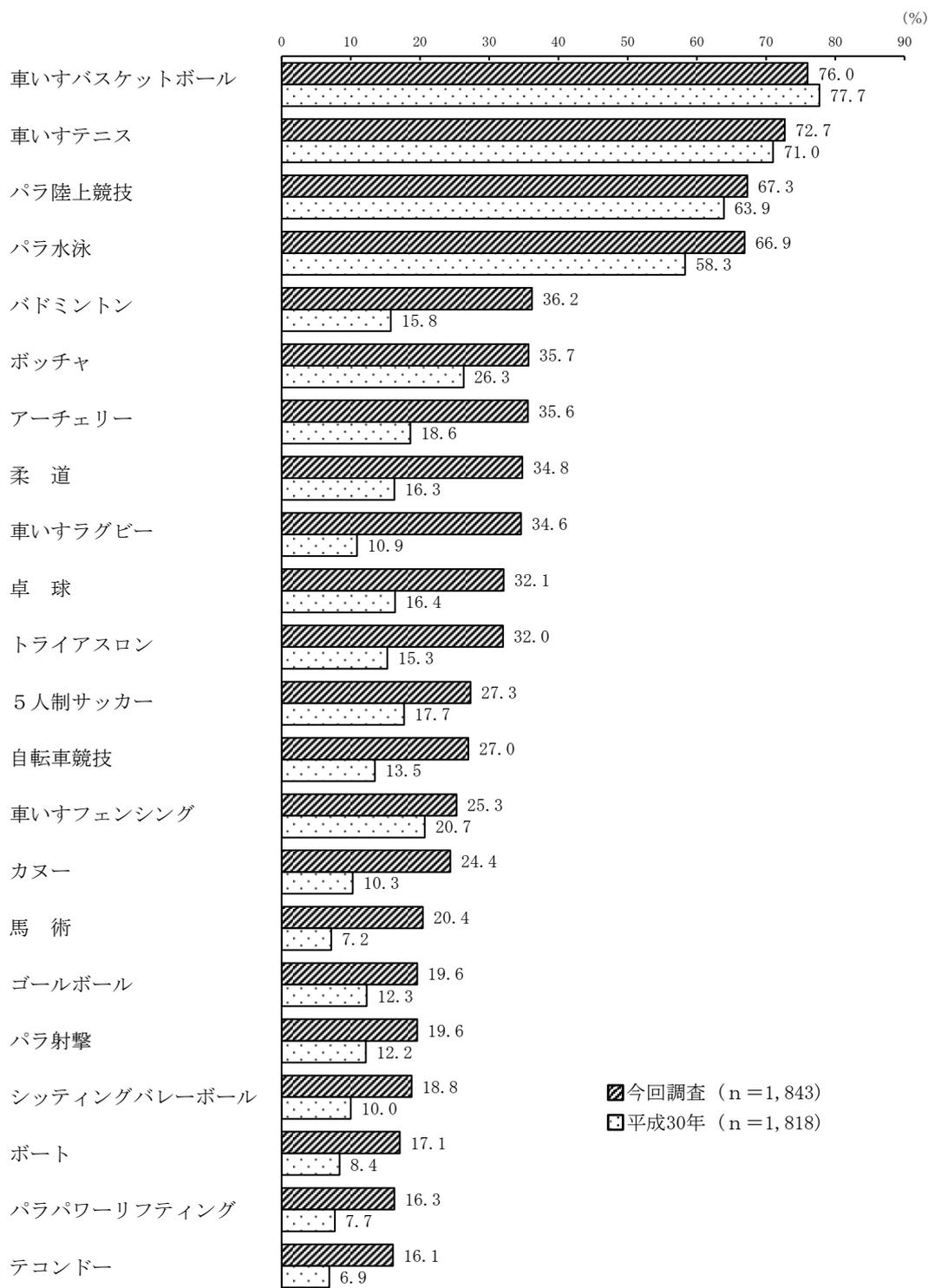
## 4 東京2020パラリンピック実施競技、選手の認知度、情報の収集源

### (1) 東京2020パラリンピック競技で実施する競技の認知度：

東京2020パラリンピックで実施する競技のうち、知っているものを聞いた。(M. A.)

(本文P42～P45)

- ・「車いすバスケットボール」が76%でトップ（平成30年より2ポイント減少）
- ・「車いすテニス」73%、「パラ陸上競技」「パラ水泳」67%が続く



(注1) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成30年9月調査)

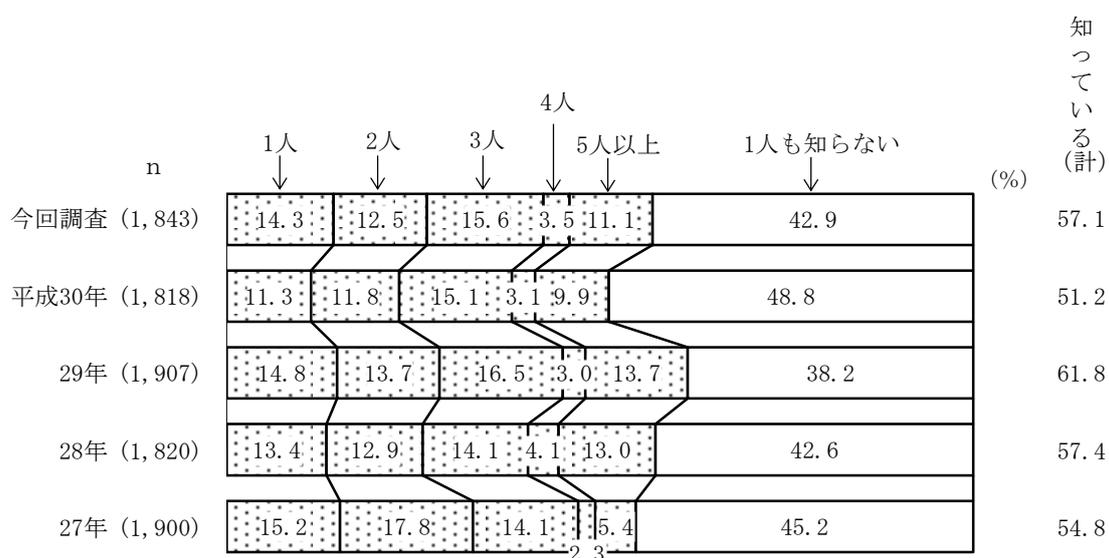
(注2) 「パラ陸上競技」「パラ水泳」「車いすラグビー」「パラ射撃」「パラパワーリフティング」は平成30年以前では「陸上競技」「水泳」「ウィルチェアラグビー」「射撃」「パワーリフティング」と表現していた。

(2) パラリンピック選手を知っている人数：

過去の大会に出場した選手や東京大会を目指している選手など、パラリンピック選手を何人知っているか聞いた。

(本文 P46～P49)

- ・『知っている（計）』は57%（平成30年より6ポイント増加）
- ・「1人も知らない」は43%（平成30年より6ポイント減少）



(注1) 『知っている（計）』は「1人」～「5人以上」の合計

(注2) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成30年9月調査）

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）

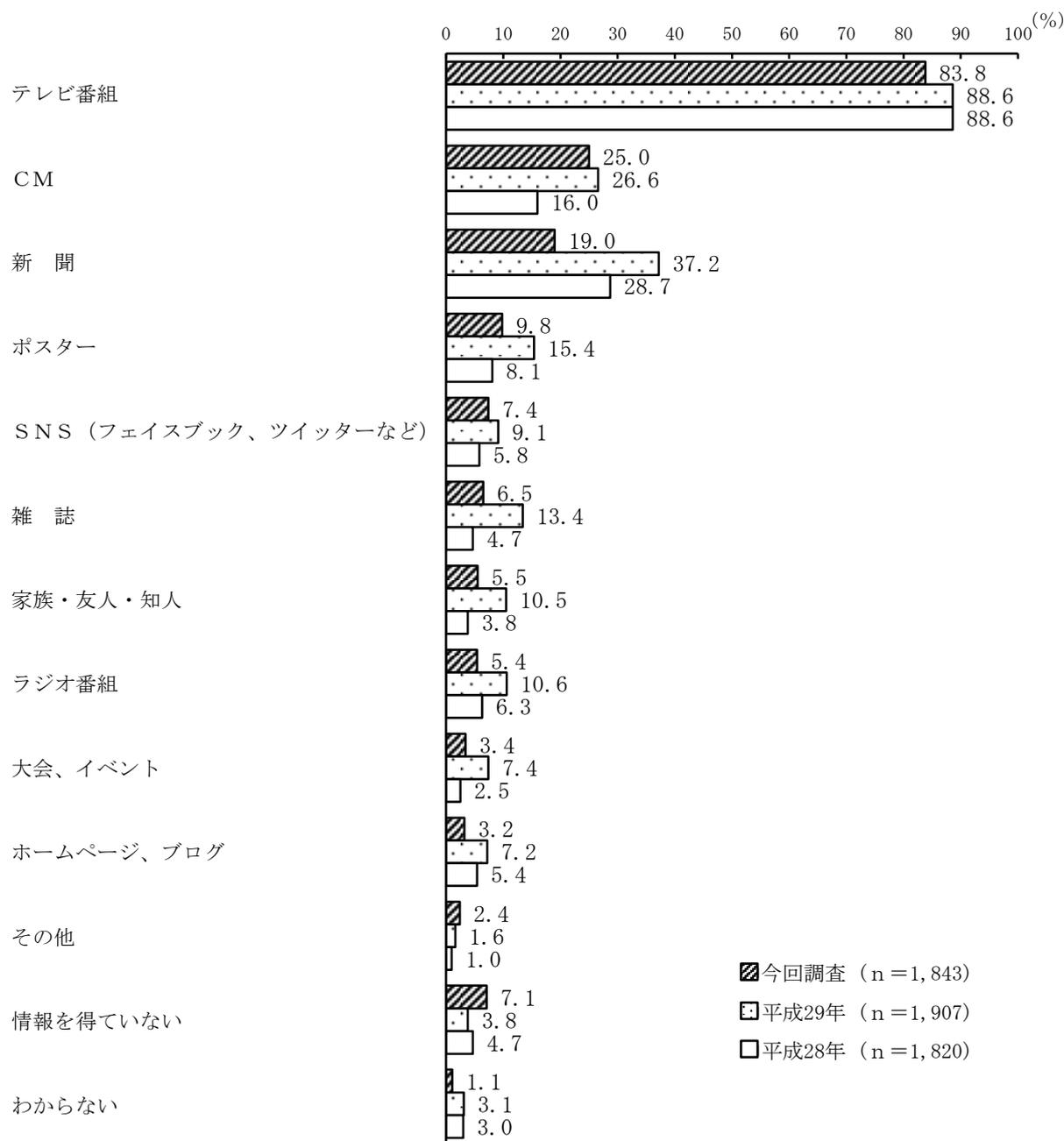
平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）

(3) パラリンピックに関する情報の収集源：

パラリンピックに関する情報を何から得ているか聞いた。(M. A.)

(本文 P 50～P 53)

- ・「テレビ番組」が84%でトップ（平成29年より5ポイント減少）
- ・「CM」25%、「新聞」19%、「ポスター」10%が続く



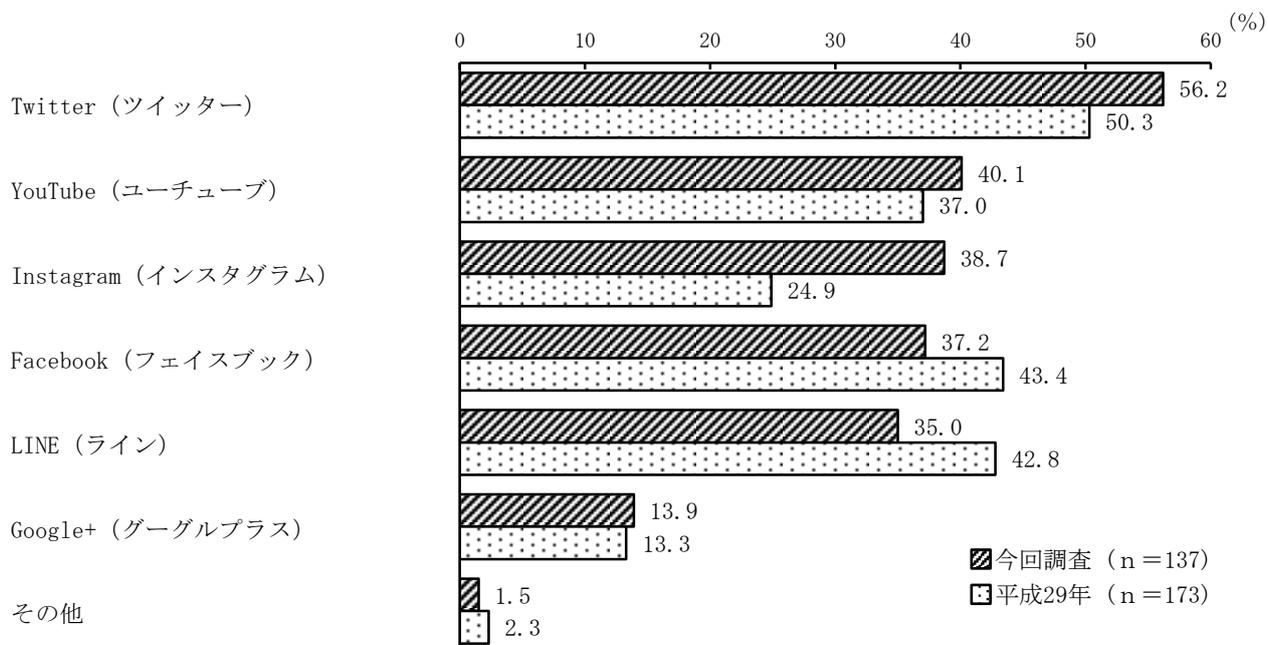
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)  
 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成28年9月調査)

[パラリンピックの情報を得る際に利用しやすいSNS]：

「SNS」と答えた人（137人）に、パラリンピックの情報を得る際に利用しやすいSNSについて聞いた。（M. A.）

（本文P54～P57）

- ・「Twitter（ツイッター）」が56%でトップ（平成29年より6ポイント増加）
- ・「YouTube（ユーチューブ）」40%、「Instagram（インスタグラム）」39%（14ポイント増加）、
- ・「Facebook（フェイスブック）」37%、「LINE（ライン）」35%が続く



（注）平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

## 5 障害者スポーツへの関心度等

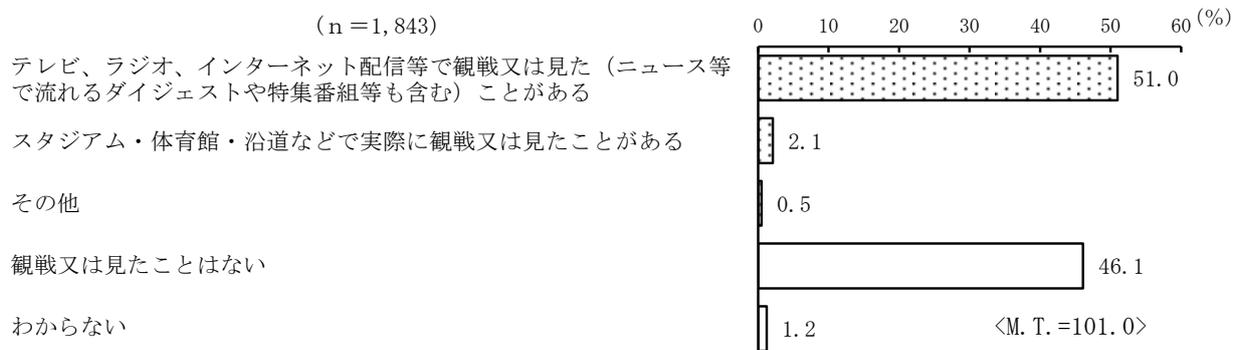
### (1) 1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦又は見た経験：

この1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦又は見たことがあるかを聞いた。

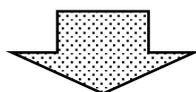
(M. A.)

(本文P58～P62)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦又は見た（ニュース等で流れるダイジェストや特集番組等も含む）ことがある」が51%でトップ

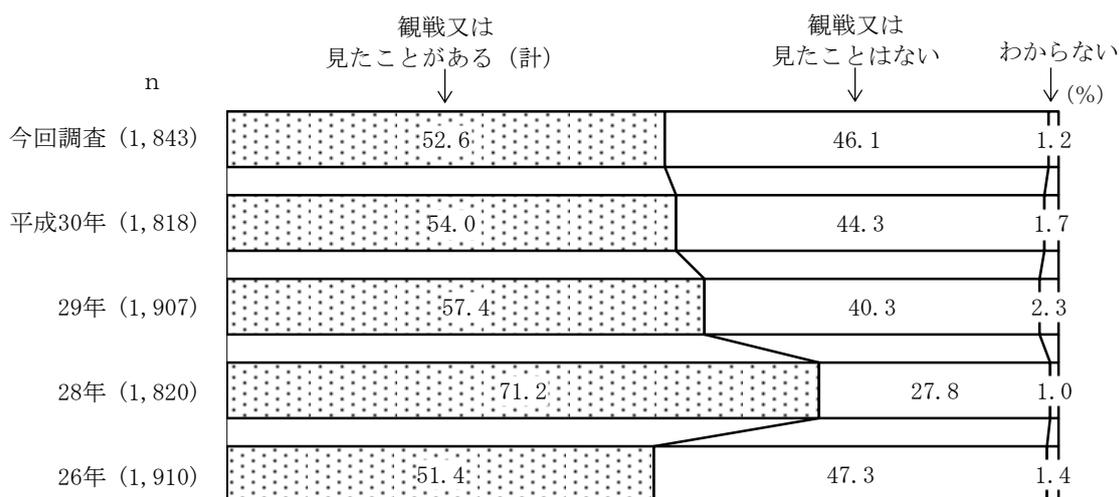


（上から3つの選択肢を答えた人を『観戦又は見たことがある（計）』とし、「観戦又は見たことはない」と答えた人との比率をみると以下のとおり。）



### [この一年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦又は見た経験の有無]

- ・『観戦又は見たことがある（計）』は53%（平成30年より1ポイント減少）
- ・「観戦又は見たことはない」は46%（平成30年より2ポイント増加）



(注1) 『観戦又は見たことがある（計）』は「観戦又は見たことはない」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合

(注2) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成30年9月調査）

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成28年9月調査）

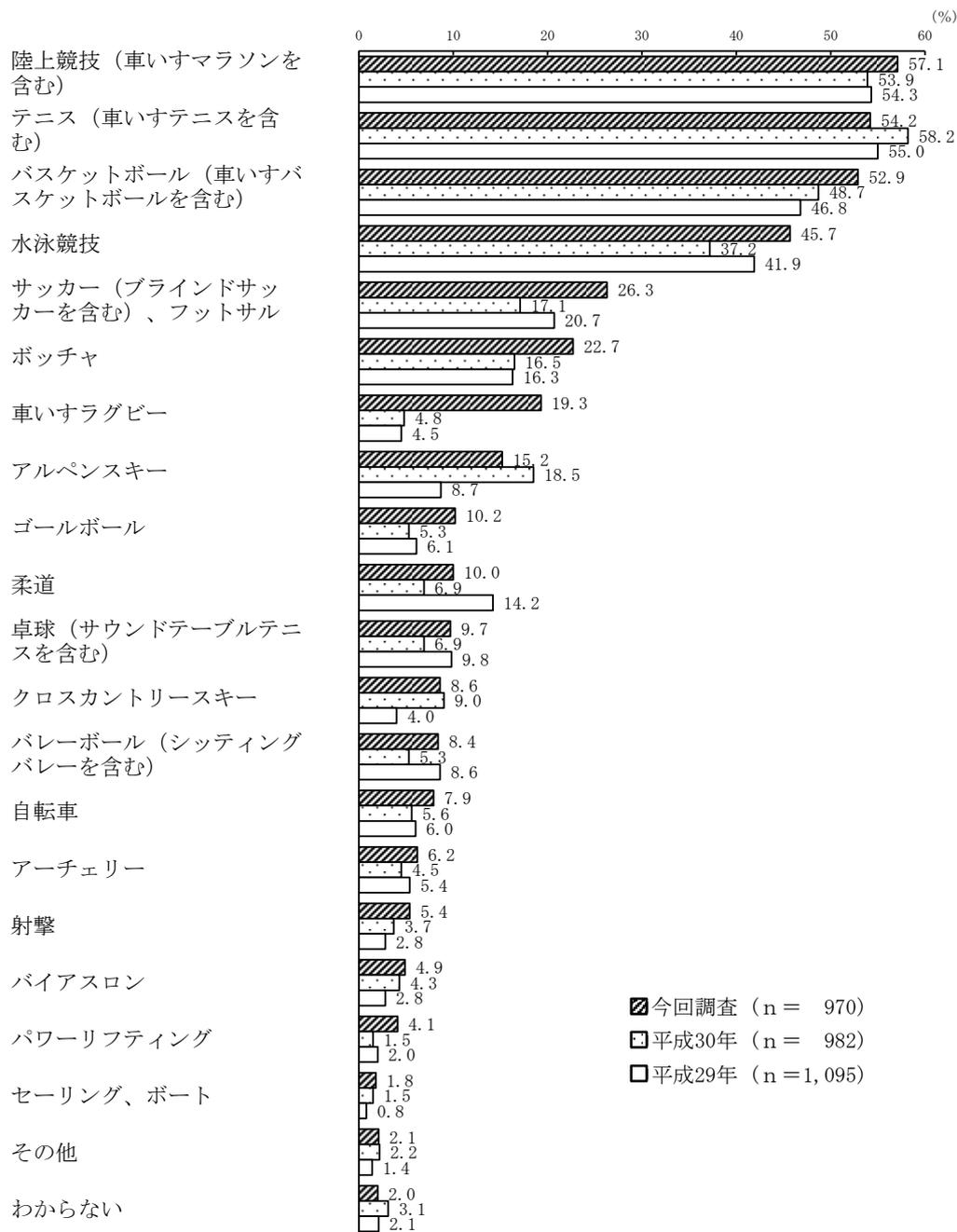
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査」（平成26年10月調査）

**〔障害者スポーツやパラリンピック競技で観戦又は見たことがある競技〕：**

「スタジアム・体育館・沿道などで実際に観戦又は見たことがある」「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦又は見た（ニュース等で流れるダイジェストや特集番組等も含む）ことがある」「その他」と答えた人（970人）に、障害者スポーツやパラリンピック競技で観戦又は見たことがある競技を聞いた。（M. A.）

（本文P63～P66）

- ・「陸上競技（車いすマラソンを含む）」が57%でトップ（平成30年より3ポイント増加）
- ・「テニス（車いすテニスを含む）」54%、「バスケットボール（車いすバスケットボールを含む）」53%、「水泳競技」46%、「サッカー（ブラインドサッカーを含む）、フットサル」26%が続く



（注1）「自転車」「バレーボール（シットイングバレーを含む）」は平成30年では「自転車競技」「バレーボール（シットイングバレーボールを含む）」と表現していた。

「車いすラグビー」は平成30年以前では「ウィルチェアーラグビー」と表現していた。

（注2）平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成30年9月調査）

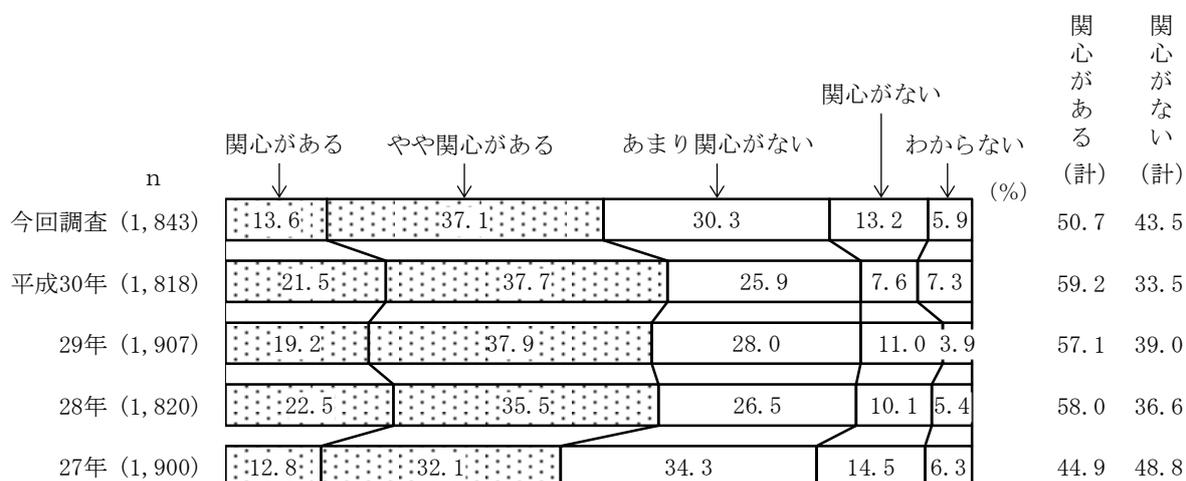
平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

(2) 障害者スポーツへの関心度：

障害者スポーツへの関心があるかを聞いた。

(本文 P67～P70)

- ・『関心がある(計)』は51% (平成30年より9ポイント減少)
- ・『関心がない(計)』は44% (平成30年より10ポイント増加)



(注1) 『関心がある(計)』は「関心がある」「やや関心がある」の合計

『関心がない(計)』は「関心がない」「あまり関心がない」の合計

(注2) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成30年9月調査)

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)

平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成28年9月調査)

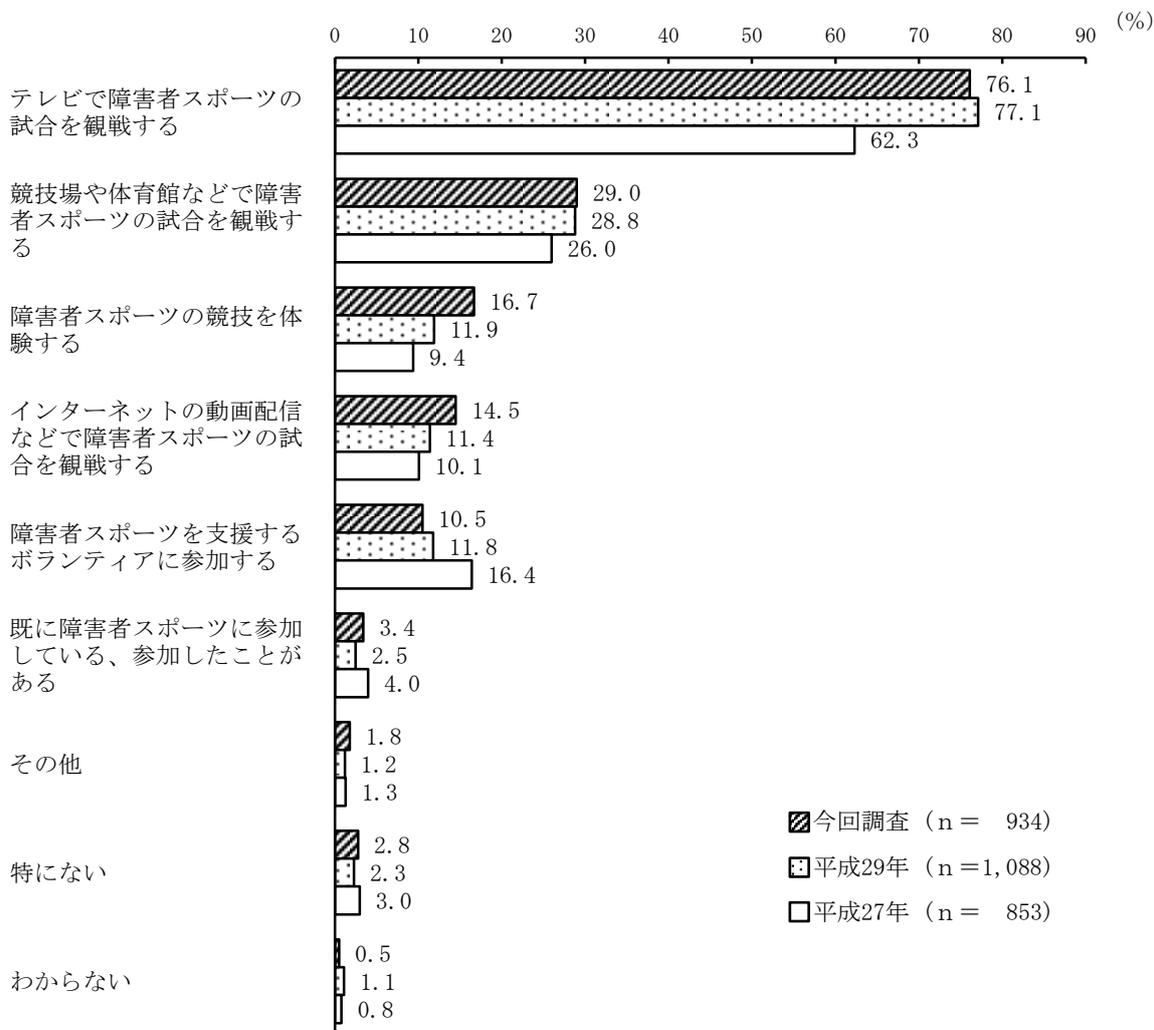
平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

[障害者スポーツに関することでしてみたいこと] :

「関心がある」「やや関心がある」と答えた人（934人）に、障害者スポーツに関することでしてみたいことを聞いた。（M. A.）

（本文P71～P74）

- ・「テレビで障害者スポーツの試合を観戦する」が76%でトップ（平成29年より1ポイント減少）
- ・「競技場や体育館などで障害者スポーツの試合を観戦する」29%、「障害者スポーツの競技を体験する」17%が続く



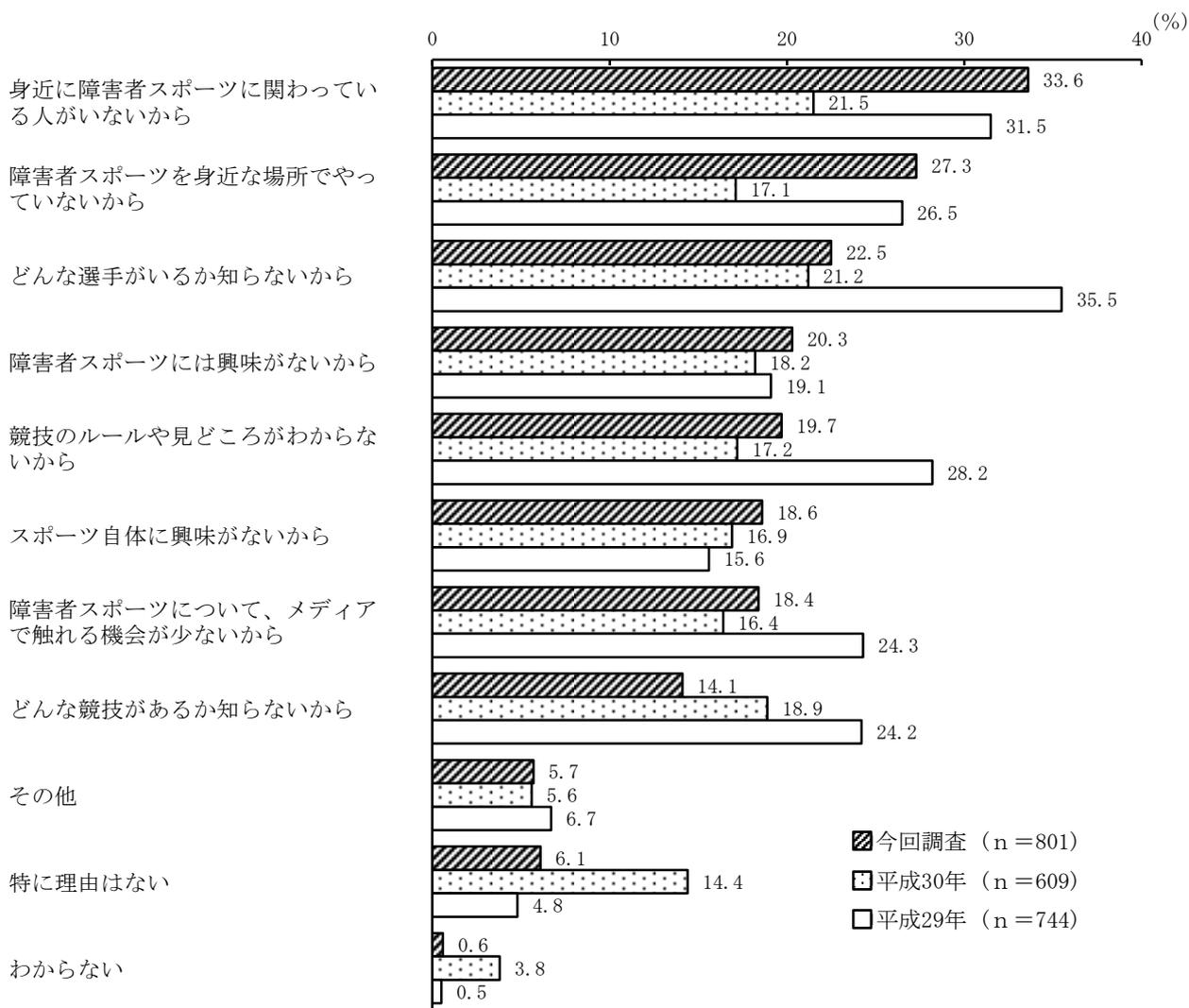
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）  
平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）

[障害者スポーツに関心がない理由]：

「あまり関心がない」「関心がない」と答えた人（801人）に、障害者スポーツに関心がない理由を聞いた。（M. A.）

（本文 P75～P78）

- ・「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」が34%でトップ  
（平成30年より12ポイント増加）
- ・「障害者スポーツを身近な場所でやっていないから」27%、「どんな選手がいるか知らないから」23%が続く



（注）平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」（平成30年9月調査）

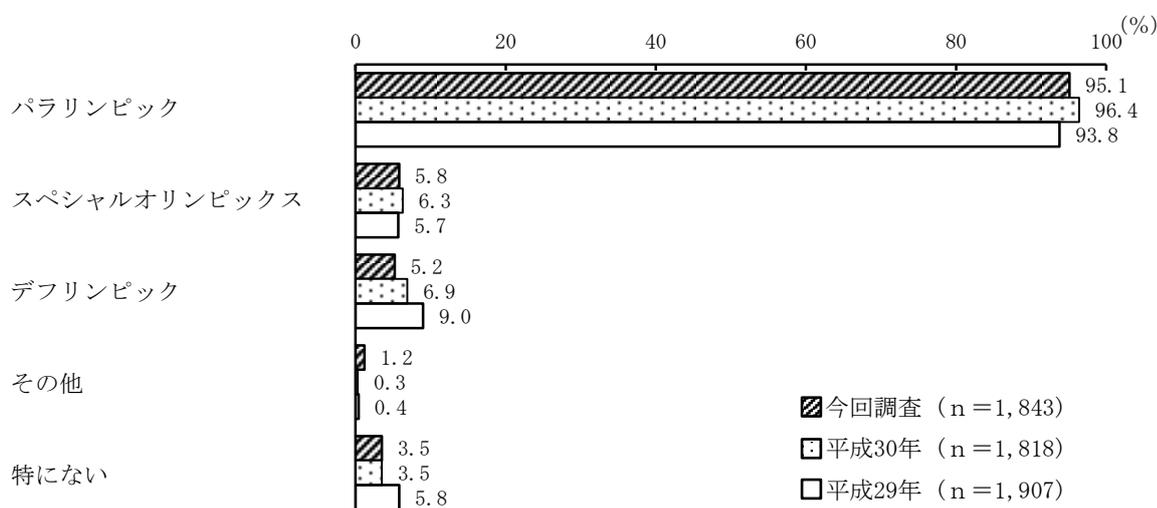
平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

### (3) 障害者スポーツの国際大会の認知度：

障害者スポーツの国際大会の認知度を聞いた。(M. A.)

(本文 P 79～P 82)

- ・「パラリンピック」が95%でトップ（平成30年より1ポイント減少）
- ・「スペシャルオリンピックス」6%、「デフリンピック」5%が続く



(注) 平成30年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」(平成30年9月調査)

平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)

#### ※ スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに継続的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会の提供を使命とし、活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質を豊かにすることを目的とする活動です。オリンピック、パラリンピック同様、4年に一度夏季、冬季の世界大会が開催されます。日本でも世界大会への予選会を兼ねて全国大会を行っています。

< (公財) スペシャルオリンピックス日本公式サイトより引用 >

<http://www.son.or.jp/about/index.html>

#### ※ デフリンピックとは

身体障害者のオリンピック「パラリンピック」に対し「デフリンピック (Deaflympics)」は、ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。

< (一財) 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会デフリンピック啓発ウェブサイトより引用 >

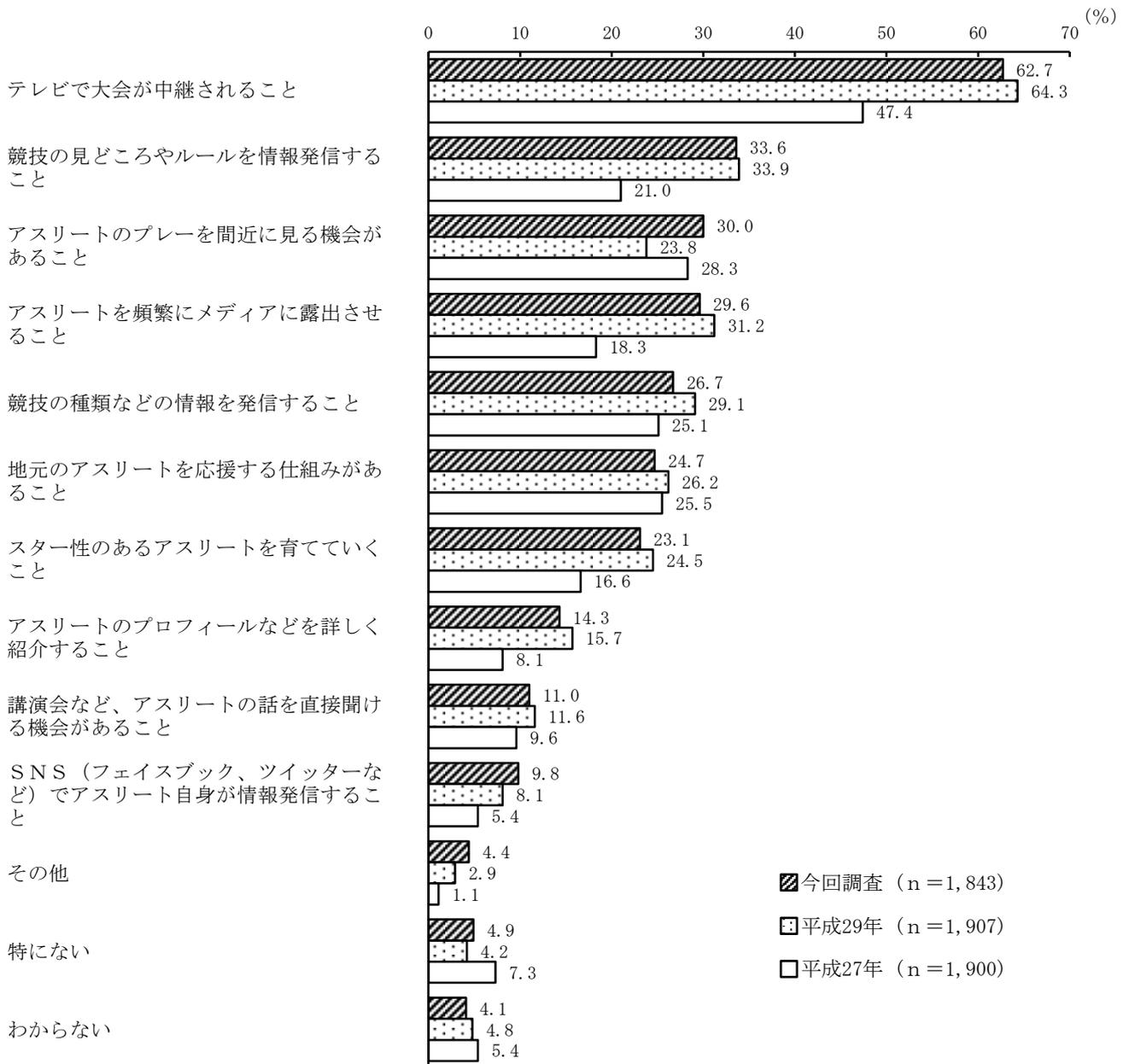
<http://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics/games-about>

(4) 障害者スポーツへの関心が高まると思う取組：

どのような取組があれば障害者スポーツへの関心が高まると思うかを聞いた。(M. A.)

(本文P83～P86)

- ・「テレビで大会が中継されること」が63%でトップ（平成29年より2ポイント減少）
- ・「競技の見どころやルールを情報発信すること」34%、「アスリートのプレーを間近に見る機会があること」「アスリートを頻繁にメディアに露出させること」30%が続く



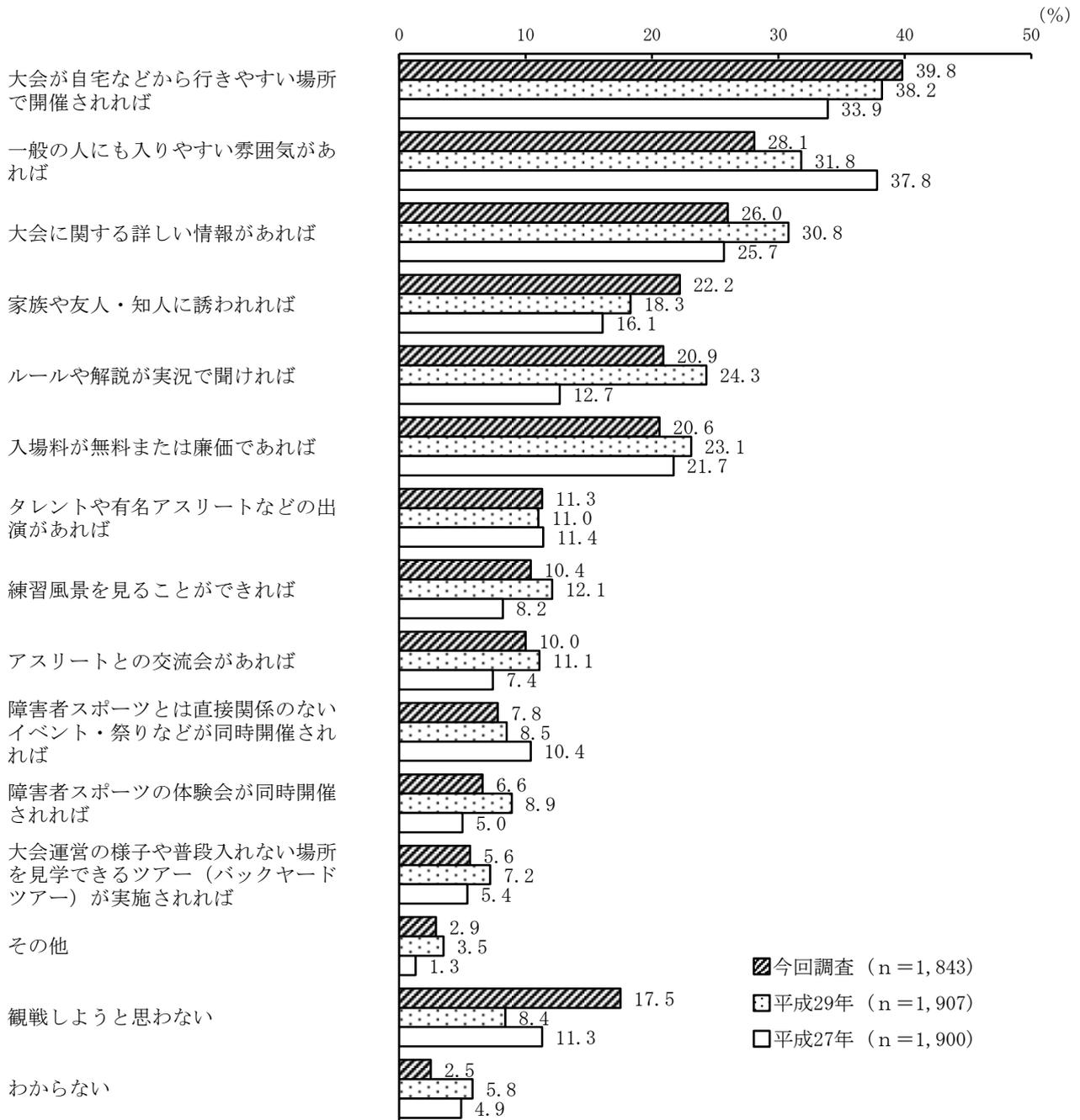
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）  
 平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）

(5) 障害者スポーツの大会を実際に観戦してみようと思う取組・工夫：

どのような取組・工夫があれば実際に観戦してみようと思うかを聞いた。(M. A.)

(本文P87～P90)

- ・「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」が40%でトップ  
(平成29年より2ポイント増加)
- ・「一般の人にも入りやすい雰囲気があれば」28%、「大会に関する詳しい情報があれば」26%が  
続く



(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」(平成29年9月調査)

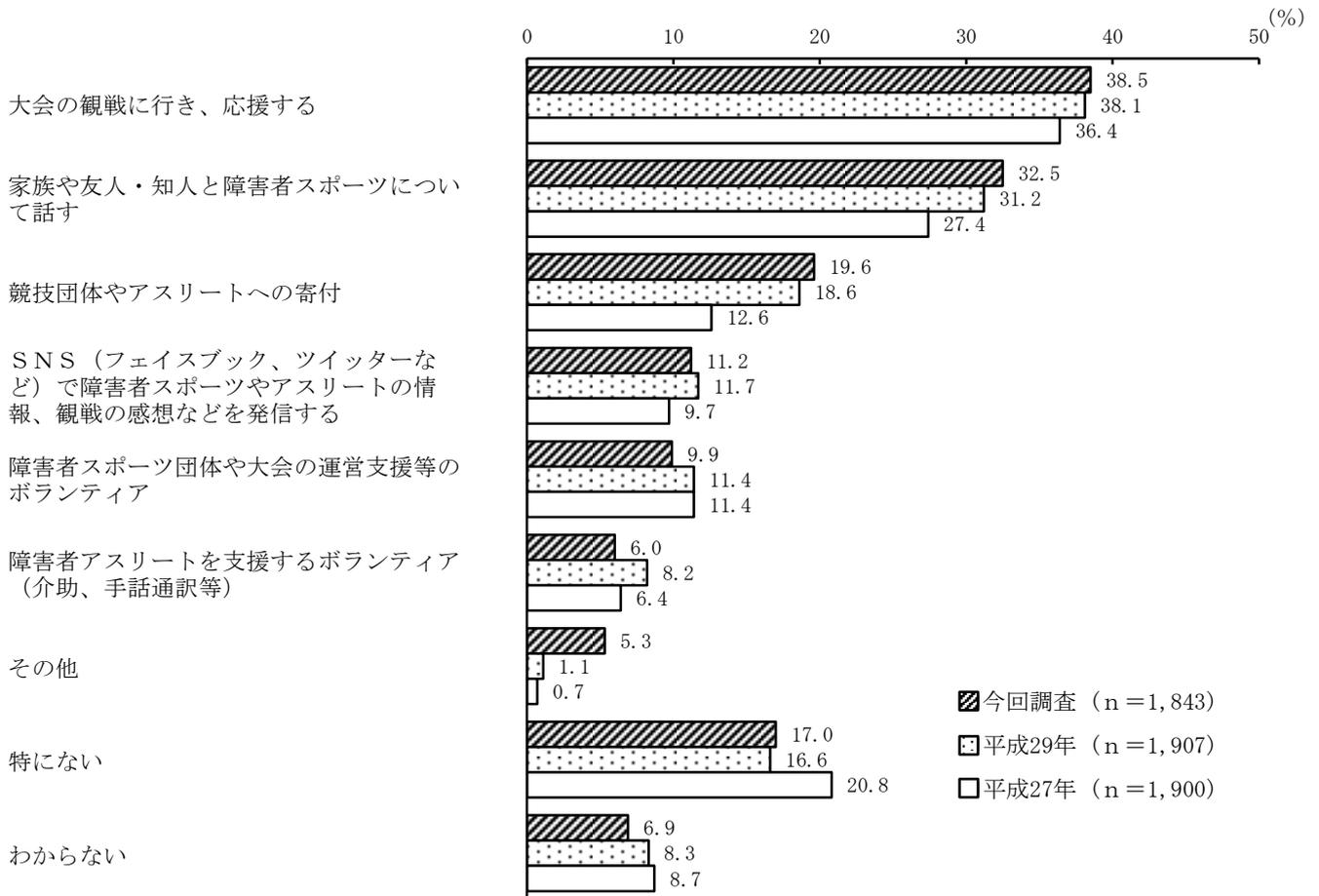
平成27年は「都民生活に関する世論調査」(平成27年8月調査)

(6) 障害者スポーツ団体や障害者アスリートへの支援でできること：

障害者スポーツ団体や障害者アスリートへの支援でできることはあるか聞いた。(M. A.)

(本文P91～P94)

- ・「大会の観戦に行き、応援する」が39%でトップ（平成29年とほぼ同様）
- ・「家族や友人・知人と障害者スポーツについて話す」33%、「競技団体やアスリートへの寄付」20%が続く



(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査」（平成29年9月調査）

平成27年は「都民生活に関する世論調査」（平成27年8月調査）